

全国ほしいもグランプリ2025 開催される

～ほしいも日本一決定戦～

一般財団法人 いも類振興会副理事長
全国農業協同組合連合会 茨城県本部 技術顧問

いずみさわ 泉澤
ただし 直

令和7年1月10日、茨城県が主催する「全国ほしいもグランプリ2025」が水戸市のプラザホテルで開催された。審査員の一人として参加したので、その概況を報告し、感想を述べたい。

1. 1月10日は「ほしいもの日」 その3つの由来！

①一月十日の数字を重ねると「干」という漢字になること、②10日（とおか）は、いものデンプンが糖分に変わる“糖化（とうか）”につながることで、③寒さがつのるこのころからが、ほしいもの最もおいしい

時期になることの3つが由来としてあげられ、茨城県が昨年1月に制定した。2年目となる今年は、初めてのグランプリが開催された。

2. 開催目的 日本一を決める！

全国各地で生産されるほしいものの中から、外観・食味ともに優れた「日本一美味しいほしいも」を決定する。また、日本一おいしいほしいもを生産した事業者を表彰するとともに、ほしいもの魅力を消費者にPRし、さらなる消費拡大を図る。



参加者によるフォトセッション 前列左端が筆者

3. グランプリ応募要件など 品種「べにはるか」の「平干し」で評価！

- 1) 販売目的で自ら加工したほしいも(平干し)であること。
- 2) 事業者が所在する都道府県内で生産されたかんしょ(さつまいも)を使用していること。品種は「べにはるか」に限定。
- 3) HACCPに沿った衛生管理、適切な賞味期限、保存方法の設定を満たした製品であること。 など

4. 審査方法 3次の審査を経て決まる！

出品されたものを1次審査として書類審査を行い、2次審査は分析機関による糖度・水分率・水分活性を測定し、上位15点を選定する。最終審査は審査員による外観品質審査及び食味品質審査により上位3点を決定する。1位は優勝、以下2位、3位として表彰される。

なお、最終審査における審査員は以下の方である。

- ・ゲスト審査員 橋本マナミさん(タレント)
- ・審査員長 岡部 勝義 氏(蜜芋研究所所長/さつまいもシェフ・レストラン「et

vous?」オーナーシェフ)
小松 亜子 氏(ほしいも愛好家)

- ・審査員 田口 一憲 氏(農研機構 上級研究員)
- ・審査員 泉澤 直(筆者)

5. 結果 入賞は茨城県が占める！

応募点数は、県内38と県外は北海道から鹿児島県まで13の51点で、そのうち最終審査には県内10、県外5の15点が残った。これを5点ずつ3つのグループに分け、審査員が外観や食味を評価し、上位3点を選出した。入賞者は以下のとおりである。

- ・1位 株式会社 干し芋農園川上(茨城県東海村)
- ・2位 株式会社 幸田商店(茨城県ひたちなか市)
- ・3位 干しいも工房しんあい農園(茨城県ひたちなか市)

入賞者には、大井川和彦茨城県知事からトロフィーが授与された。また、茨城県内の入賞者には、都内百貨店等に差別化販売の提案を行うとともに、メディアや県HP、SNSを活用した情報発信などの特典がある。



外観審査



試食する橋本マナミさん

6. 感想など

この手のグランプリはすべて同じだろうが、上位15点からさらに優れる3点の選定と順位付けは非常に難しい。見た目は素晴らしく、それほど味の差があろうはずもなく、目をつぶり、ひと噛みひと噛み神経を集中して味わった。審査員長の岡部氏が1位のほしいもを評して「口に入れた瞬間から食感、香りがしっかり感じられ、特有の優しい甘みが印象的」と評したが、さすがに適切な表現だと思った。

茨城県のほしいもは百年以上の歴史があり、現在産出額では90%以上のシェアを誇る。それは、火山灰土壌の畑でデンプンがいもの中に程よく蓄積し、サツマイモ北限の産地で冬は晴天が続く冷たい風が吹くという、おいしいほしいもが効率よくできる条件を満たしているからである。大井川知事は「茨城県の事業者が受賞してうれしく思う」と話したが、今回の入賞作品は長い

歴史の中で培われた栽培技術と加工技術がマッチしてできたものである。

しかし、温暖化の影響で、今や北海道でもサツマイモが一定面積栽培されるようになっていく。また、加工面では機械乾燥技術が進み、寒い北海道でも、暖かい鹿児島県でも、秋から冬に曇天が続く日本海側でもほしいもが作れるようになった。さらに、品種「べにはるか」の誕生は、全国でほしいもを作る意欲に火をつけたのではないだろうか。大井川知事が「事業者の皆様で切磋琢磨することで、ほしいもという商品やそのおいしさを日本だけでなく、世界に広めてほしい」と述べたように、全国的においしさに磨きをかけ、世界を含めほしいも人気が広がることを期待したい。

最後に、ほしいも大好きという橋本マナミさんの華やかな雰囲気の中で、グランプリが盛大に行えたことをうれしく思う。